

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成27年1月21日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=2272100377-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々の協力体制がすばらしく、沢山のイベントへの参加をさせて頂いている。特に秋の祭り時は山車がホーム駐車場に来て下さるので、毎年楽しませてもらっています。その時は区長さんを始め若い人たちが子供たちも参加されているので地域の方々との大切な触れ合いの場となっております。またとても小さい畑ですが春から秋場は季節の野菜を育て、収穫を楽しむバーベQや調理時に召し上がって頂き季節を感じて頂けるようにしております。ほほえみでは全ての利用者様がその人らしく過ごせるよう見守り支援を行っているのんびりと穏やかにいつも笑顔があふれる家をそんなホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な山あいの住宅地にある。地域密着型に相応しく、近隣との関係が良好で、運営推進会議には区長や副区長の他に7名もの地区民生委員の参加、協力があり、行政との信頼関係も築かれている。法人代表が定めた「ひまわりのような笑顔・・・」を理念とし、利用者全員が笑顔でその人らしく過ごせるよう支援している。管理者は前任地でのISO受審の経験を生かし、各種の書類や会議のあり方等を改善し、利用者・家族・職員とも良好な信頼関係を築きながら、ホームの運営にあたっている。家族アンケートでも、利用者が入居して喜んでいる様子が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します」という理念を管理者・職員一同共有し取り組んでいる。	法人代表の願いである理念を、管理者や職員が誇りを持って共有し、利用者の笑顔を求めて日々介護に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設の際、地域の方に集まって頂き理念や取り組みをお伝えし理解を頂いている。また散歩時に近所の方の庭の花を見せて頂いたり動物と遊ばせて頂き、利用者様や職員の顔を覚えて頂けるようにしている。	区長や副区長など7名もの民生委員の理解と協力、近隣住民や子供達との交流等、利用者が日常的に地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に区長様・沢山の民生委員の方々に参加して頂き、行政の方々と共に認知症の支援についての理解や行事や勉強会などについて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度実施している。施設内の行事の報告や困りごとの相談をしたり地域の行事のお知らせにて、お互いに参加できるように協力し合っている。	家族や区長・民生委員等の近隣代表や複数の行政関係者も参加し、2ヶ月に1回着実に開催され、率直な意見交換の結果がホームの運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模ホーム部会やイベント行事には参加して頂き情報交換を行い、運営推進会議のにも必ず出席して頂き協力し合えるようにしている。	担当者とは日常的に報告や連絡、相談が行われており、市の福祉行政が手厚く、地域型福祉センターが機能し、その利用等を通じて良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則行っていない。 「身体拘束0宣言」をし、家族にも理解して頂いている。	身体拘束0宣言を行い、マニュアルに基づき具体的な禁止事項を理解し、拘束の無い支援を行なっている。屋間は玄関の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティングの際、職員の対応や対処について意見交換し、お互いを振り返り見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用していた利用者様がいらしたので職員にも浸透している。たまたまその制度を活用する事態が起きたので皆で再理解できた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にご家族様の不安や疑問に思う事を伺い、十分な説明と話し合いをし、納得頂いた上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中から聞き取りご家族様については面会時に聞く事を心掛け、その情報を共有・反映し、できるだけ要望に添えるよう努力している。	利用者や家族から聞き取った入所時の情報、日常の観察や面会時の家族との対話等を通じて、意見や意向を把握し、ケアプランに反映して利用者本位の介護に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、全職員が意見や提案をできるような時間を設けている。また朝・夕の申し送り時にはその日の状況・状態等で色々な意見を聞き反映できるようにしている。	職員ミーティングは率直で、ヒヤリハット等の出来事も漏らさず話し合い、改善案を出し合ってホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格・適正・感性を知り、励ましやねぎらいの言葉を掛けるようにすると共に精神面でのケアに力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量・経験等に合わせた研修への参加を心掛けている。また研修の報告会をミーティング時に設け内部研修を通じてスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で行われている研修や新年会・運動会など交流できる場には参加し、情報交換をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「傾聴」という言葉を理解し、日々の会話の中から聞き取るように努めている。しかし入所を理解できない方や言葉に出すのが難しい方もあり、その部分は課題である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際、ご家族様の意向や不安な事をじっくり聞き、意向にはできるだけ添えるようにしている。また入所初日や一週間くらいは利用者様の様子を電話にて報告し安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム対象外の場合は担当窓口と相談し他のサービスの利用を検討して頂くようお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者様には常に尊敬の意を表し、一緒に作業する中では教えて頂き「ありがとう」の姿勢で対応できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にはご家族様の意見や意向を伺い希望に添えるよう心掛け、またホームでの行事や外出の際は一緒に参加できるようお願いをして家族との絆の関係性も大切にできるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にはいつでも訪問して頂けるように声をかけをし、馴染みの方との外出もご家族様の理解を通じ実現できるようにしている。	来訪者の歓迎や懐かしい場所への同行等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、利用者同士や家族・近隣等の新しくできた関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理や作品制作時、職員を交え全員で作業する事により、皆で談笑し、信頼関係を築きお互いの存在を確認することで、お互いに支え合ったり姿がみられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は入院後転院、死亡のケースがほとんどである。入院中転院中には顔を見せに行くようにし、関係性は絶たないように努めている。必要に応じ相談にのる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から聞き取るように努め会話からの聞き取りが難しい方や自己決定ができない方は、その方が出すサインや生活歴・ご家族様からの聞き取りなどで意向を確認できるようにしている。	利用者との会話の断片は書き出して、家族に確認して整理し利用者の伝えたかったことを明確にしている。混乱していたことが明確になり利用者のすっきりとした様子が窺えるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居された方は、これまでの環境とあまり違わないように、ご家族様とも話し合い馴染みのものを提供できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録への記入・申し送りノートへの記入などで全職員が共有し、把握できている。朝・夕必ず職員間で申し送りを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気付きは随時報告しあい、ミーティングで課題に挙げるなどし、介護計画に反映している。また何かあったら随時家族に報告している。	入居当初は家族も交えてプランを検討し、その後も必要に応じて計画変更を実施し家族の意向を確認している。短期目標の実践は毎日記録しており、3カ月毎のモニタリングで現状に即した計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートへ毎日の気づきを記入し職員間で情報の共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけご本人様・ご家族様の意向を伺い、それに添えるよう対応を検討している。その時その方に合ったサービスができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活の中で一人ひとりができる事を把握しながら安全に生活できるよう支援させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月2回の往診がある為、利用者様はそこで医療を受けている。ご本人様・ご家族様が馴染みの医療機関で受診を希望される場合は、そちらで診て頂いている。	殆どの利用者が協力医の往診を受けている。本人家族の希望により、従来からのかかりつけ医に受診する利用者もいる。看護師と24時間対応の医師により適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置があり24時間オンコールになっている。ちょっとした異変や気付きは、看護師に報告し受診の必要性や処置についての指示をもらえるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報交換も迅速に行い、ご本人様・ご家族様・病院との退院・転院に関して連携作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期についてのご家族様の意向を伺っている。また去年は一人の方の看取りを行った。	入居の際説明している。また回復が望めないと判断された時点で家族の意向を確認している。ホームでの看取りはケアプランを医師や看護師・家族・職員が共有し、協力して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し全職員が把握できるようにミーティング時に再度確認を合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月・12月に避難訓練を行った。夜間一斉メール送信や夜間緊急招集なども行い運営推進会議を通じて区長様などへ協力も随時行っている。	年2回の防災訓練を実施している。地区防災の訓練にも参加している。	一斉メールについてどの職員でも発信者になれるように訓練を期待したい。また消防署の協力が得られた訓練では、ホーム独自の避難方法等のアドバイスを求められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を忘れず、個々の生活歴を把握し、人格尊重をした言葉かけや対応を心掛けている。	プライバシーの保護等について入所時に一通り説明している。利用者の感じ方はそれぞれなので聞いて不快でない対応をしている。毎月のミーティングにて望ましい介護について話し合い支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定ができるよう、その方に合わせた声かけを行うようにしている。意思表示が困難な方には上手な働きかけによって決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為、全てを希望に添えるわけではないができる限り、その方の意向を尊重し、応えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容室の方が訪問されカットや毛染めをして頂いている。また自分で決められる方は洋服なども選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で調理をする機会も設け、できる部分をやって頂くようにしている。また個々の能力によりお手伝いを日々お願いしている。	包丁を扱える利用者が大半で、カレーやシチューなど野菜を自由に切ってもらっている。葉物をちぎったり、混ぜたりと役割は多い。ギョーザやバーベキュー等の利用者好みの献立も折々に楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎食後チェックしている。水分の入りにくい方には、摂取しやすい形状に変え、水分補給量には気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の力量に応じた口腔ケアを行い、夜間に義歯の洗浄も必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄チェック表に記入する事により、全職員が個々のパターンを把握し、定時や随時に声かけを行い、その方に合わせた支援をしている。	全員の排せつチェックを実施しており、パターンを把握して声かけ誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もあり、おむつに頼らないよう個々に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し全職員で把握している。便秘のひどい方には運動を進めたり食物繊維の多いものを多くとれるように考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を考慮しながら、自己決定できる方にはご本人様の希望に添えるよう意向を伺いながら、安全に入浴できるようにしている。	ほぼ一日置きに入浴している。服の着脱は時間をかけて行う利用者もあり、無理強いせず個人のやり方を尊重している。浴室で歌ったり、職員に質問したりのんびり楽しい入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が日中リビングで過ごしている。休息をご自分で希望されたり、ご自分から居室へ行かれる方もいる。個々の体調をみながら休息の声かけをするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が使用する薬名と作用について看護師を中心に全職員で理解に努め薬によっては血圧測定、頓服の場合は記録に記入し把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や力を把握し、できる事をやって頂き、やりがいや生きがいにつながるよう、感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。また外出や毎月の行事などにて、楽しみを増やせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは、できるだけ希望に添えるようにしている。外出やイベント参加などもご本人様の希望に添ってできるだけ対応できるようにしている。	天気が良ければ周辺を散歩している。きれいに花を咲かせているお宅はお気に入りの散歩コースである。また家族の協力により外出する利用者も多い。車の融通がきく時間帯にはドライブにも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望で、お金の管理を自分でしている方もいるが、基本ご家族様と相談の上、こちらで預かり管理している。出納帳に記入し報告させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話ができる方には規制せずやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族的な雰囲気大切に、明るく清潔な空間作りを心掛けている。リビングには季節を感じるものを飾り、イベント時の写真を貼って会話が弾むよう工夫している。	トイレや浴室、洗面所等の共用空間はきれいに整頓されている。職員間で話し合っ行って届いた清掃のために夜間帯を活用している。床に余計な物を置いていないので、利用者が自分で日向に移動する姿も確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ・和室など好きな場所で過ごして頂けるようにしている。気の合った同志で雑談したりカラオケできる時間も提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れた物を持ち込んで頂くようお願いしている。また自分で身辺整理ができる方は、職員の手で必要以上に片付けてしまわないように気を付けている。	居室では利用者がそれぞれ好きなことをしており、こたつを設けて寝転んだり、毎日のように家族に手紙を書いたりしている。家族の協力で使い慣れた筆筒や恵比寿様等を持参し、その人らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・エレベーター・手すりを設置することにより、利用者様が安全かつご自分の力を発揮しやすくてできるだけ自立した生活を送れるよう配慮している。		